

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	医療福祉経営学分野
学籍番号		院生氏名	朴 珍相
通学キャンパス	青山キャンパス		
論文題目	包括払い制度とクリニカルパスにおける 日韓の医療者の意識に関する比較研究 －白内障手術を事例として－		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>白内障手術の支払い方法が、日本の DPC 病院では 2014 年度より日割り包括方式から一入院包括方式に、韓国では 2012 年より出来高払い方式から一入院包括方式に変更された。また日韓両国とも、包括払いへの変更に伴い、クリニカルパス (以下 CP) が急速に普及してきている。本研究の目的は、包括払い制度及び CP による診療形態の変化が、日韓の医療者の意識にどのような影響を及ぼしているかを明らかにし、今後の包括払い制度や CP に関する政策や普及の在り方に対して提言を行うことである。</p> <p>方法) まず白内障を中心に、日本の DPC および韓国の KDRG という包括払い制度導入に関する医療費や在院日数などの変化などに関する先行研究の網羅的なレビューを行った。その結果をもとに、白内障の手術に関わる日本 78 名、韓国 84 名の医師・看護師を対象に、支払い方式の変化が医療者の意識にどのような影響を及ぼしているかをアンケートによる意識調査を行い、日韓及び医師・看護師の間で統計的な比較を行った。なお、本研究は本学倫理委員会承認 (14-Ig-64) を受けている。</p> <p>結果) 日韓の医療者は包括払い制度による医療の質の低下を強く意識しており、特にその傾向が医師において有意に高いこと、包括払い制度の下で CP の活用に対し日韓ともに肯定的な意識が高いこと、包括払いの診療の効率性向上に関する効果は、日本の方が韓国の医療者よりも優位に高く評価しているなど、日韓および医師・看護師の包括払い及び CP の導入による感じ方の共通点や相違点を統計的に明らかにした。これらの結果より、包括払い制度において医療の質の向上を図るには、疾病特性を反映した CP および臨床指標を開発し、質の高い医療提供に対して経済的動機付けの方法としてプロセスやアウトカムの質評価に基づいた診療報酬の加算・減算の政策的な評価制度を検討することが重要と考えられる。</p> <p>この研究の新規性は、これまでほとんど行われることが無かった、支払い方式の変化が現場の医療者の意識にどのような影響が及ぶのかを調査した点にある。またこの研究の意義は、レセプトデータなどを用いた先行研究で明らかにされた包括払い制度導入による平均在院日数や医療費などの影響と、現場スタッフの包括払い導入に対して抱える意識が、ほぼ一致する点領域と、あまり一致しない領域を明らかにしたことである。現場の意識を反映した今後のより望ましい包括払いや CP の改定や普及の方向性を考える上で、貴重な知見を提供する研究として高く評価できる。</p> <p>2014 年 11 月 16 日、12 月 15 日、2015 年 1 月 7 日の 3 回の審査会を開催し、初回審査で論文の論理の立て方や論文内での表現方法の修正を求めたところ、適切に修正された。また、口頭試問において適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 高橋 泰</p> <p>副 査 水巻 中正</p> <p>副 査 斎藤 恵一</p>		